

できたときの喜びを みんなで共感できる場に

放課後子ども教室コーディネーター

なかがわ ありとし

中川 有紀さん



簡

単な計算をすること、声を出して本を読むこと、いろいろな人と会話をすることは、子どもからお年寄りまで脳の働きを良くするといわれています。中でもそろばんは、指先の運動を伴うため、脳の活性化に非常に有効といわれています。

そろばんは、「1玉」と「5玉」を組み合わせた計算機です。電卓やパソコンと違って、5や10の合成分解を考えながら玉を入れて計算します。ですから計算力が身に付きます。また、数を正確に聞き取ったり、数字を読み取ったりしてそろばんに入れないければなりません。このため集中力を高める効果があります。

そろばんは、小学3年生の算数で初めて学習します。そのそろばん学習を公民館講座受講生がお手伝いします。先生が、そろばん各部位の名称、数の読み方、数の入れ方、1玉や5玉の指づかい、計算の仕方を指導された後の習熟の時間が私たちボランティアの出番です。

親指だけではじく子、人差し指だけを使う子、親指で入れるか人差し指で入れるかを悩んでいる子、5玉と1玉の意味がよく分からない子などさまざまです。そんな子どもたちに先生と協同して丁寧に教えていきます。

また、5玉が下りているときの足し算がなかなか理解できません。例えば、「5+8」の計算では、「8に2を足すと10となるから、5から2を取り残った3を入れて、5を払って10上げ、答は13」と説明すると、「わかった」と言って同じような問題に挑戦します。できたとき、「よくできたよ」と頭をなで褒めると笑顔が返ってきます。

飯野、津森小学校では、放課後子ども教室でそれぞれ30人くらいの子どもたちがそろばんの学習をしています。益城中央小は、公民館木山分館の分館活動の一環として30人くらいが習っています。放課後子ども教室でのそろばん学習支援でも、公民館講座受講生20人が指導にあたっています。

公民館講座では、「そろばんで1日1回頭の体操 子どもとともにがんばろう」を合言葉にそろばん学習に励んでいます。

子どもも大人も一緒ですが、できなかったことができるようになる喜びがそろばん学習のメリットの一つです。また、そろばん学習は、「目標を決め、その目標に向かって努力すれば必ず実を結ぶ」「私にもできる」を実感できる学習です。この実感をもつ一つ積み重ねること、これからの生活で最も大切な自尊感情が育まれます。

そろばん学習を通して頭の体操と生きがいとを共有する人が、一人でも二人でも増えることを願っています。

「そろばんは難しい」と考えず、気軽に挑戦しませんか。

そろばんの歴史

そろばんの歴史は古く、起源はメソポタミア時代(紀元前3000年代)といわれています。その頃は粘土板に線や記号で数を表していたそうです。

ギリシャ・ローマ時代には、計算するために数を実際に表す小石が使われていました。その小石を並べるテーブルのことがそろばん(アバカス)と呼ばれていました。

日本にそろばんが伝わったのは、室町時代に入り通商取引のために中国商人によって伝えられたのが最初といわれています。

当時のそろばんは5玉が二つ、1玉が五つありました。中国では今もこの形のが使われているそうです。

日本に伝来してからは、5玉一つ、1玉五つの「五つ玉そろばん」へ移行していきました。昭和に入ると、1玉も一つ減り、現在の形になりました。